

これはサンプル問題です。

問1

傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを1つ選びなさい。

国語 問題文

ア ケンチヨ

ケンシンのな看護

ケンチヨな態度

利用ケンゲンを与える

消火器の安全テンケン

ケンビ鏡を覗く

イ セイギヨ

スクロール

一

次の文章を読んで、問一〜八に答えなさい。

最初に背中の特徴を整理しておきたい。まず、直立二足歩行をする人間の両眼は、顔面に並んでついていた。それゆえ背後はどうしても死角となりやすい。また人間の視覚は、五感の中でも聴覚・味覚・嗅覚・触覚における多くの情報は、視覚で確認できるようになっている。ところが、自らの背中は身体をねじって振り返る鏡を使わなければ確認できない。いわば顔と背中は、自ら目視できない「ブラック・ボックス」となった。背中也常に他人の視線に曝^{さら}されているのである。このうち顔については鷺田清一^{さぎのへい}が、われわれは「他者の顔を想像する」点に注目し、「(顔)という現象は、それが「わたしの顔」となるまえに、まず一九九八、五六〜五八」顔が、このような他者との共同性によって成立するのだとすれば、背中は他者から言える。たとえ背中に他者からの強力な視線を浴びせられたとしても、直ちにそれを確認できないという点で、背中のもつともケンチヨ^アな特徴は、自らの視覚が及ばないために背後で何が起きているかを確認できない。例えば民俗学者の常光徹^{つねみつとけ}が指摘するように、「背後に異界や妖怪など非日常的な世界やモノが想像されているのは、このような背中の特徴に起因するためだと考えられる。

また背中は自らの身体部位でありながら、うまくセイギヨ^イできないという特徴をもつ。内田百閒^{うちだひやくかん}の「王様に描き出している。物語では、王様の背中が急に痒^{かゆ}くなって掻^かけば掻^かくほど痒さは増していく(内田一九八〇)それアリティイをもって読まれたのであり、頭や腕、足などではこうはいかなかったらう。つまり王様のセイギヨ^イできなかったというわけである。それゆえに背中は、人間以外の何か特別な力が作用するとみなされる。さらに背中は、腹と対をなして捉えられ、正面に対して影の部分を担当されてきた。たとえば、「背」といって水の「X」。「背く」などが挙げられ、表に対する裏、後ろ、または裏切りといった、どちらかと言えば不^ふまた医学の分野においても、背中は決して重要な中核部分とは位置づけられてこなかった。江戸初期に書^か体に関する部「経絡部」と「支体部」には五臟六腑^{ごぞうろくぼ}のほか、身体各部位について詳しい説明がなされている。の^のは背中よりも背骨である(寺島一九八六、一八三)。また江戸中期に「解体新書」が翻訳され西洋医学が造^{ぞう}てきた「脳」を、伝統医学の「心」に変わって一身の宗として重視し、脳と神経を中心にした身体観を形成

スクロール

